

もりおかみなみ
一般国道4号 盛岡南道路
計画段階評価
第1回説明資料

資料 1

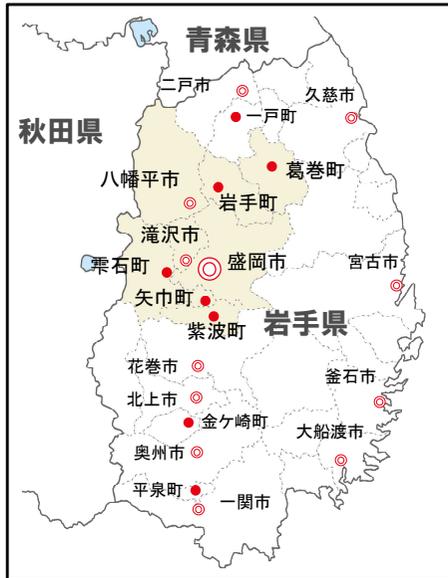
1. 評価対象区間
2. 地域の状況と課題
3. 道路交通の状況と課題
4. 地域に配慮すべき事項
5. 政策目標の素案
6. 地域の将来像との整合
7. 政策目標の案
8. 地域からの意見聴取方法
9. 今後の計画段階評価手続きの進め方

平成30年9月12日
国土交通省 東北地方整備局

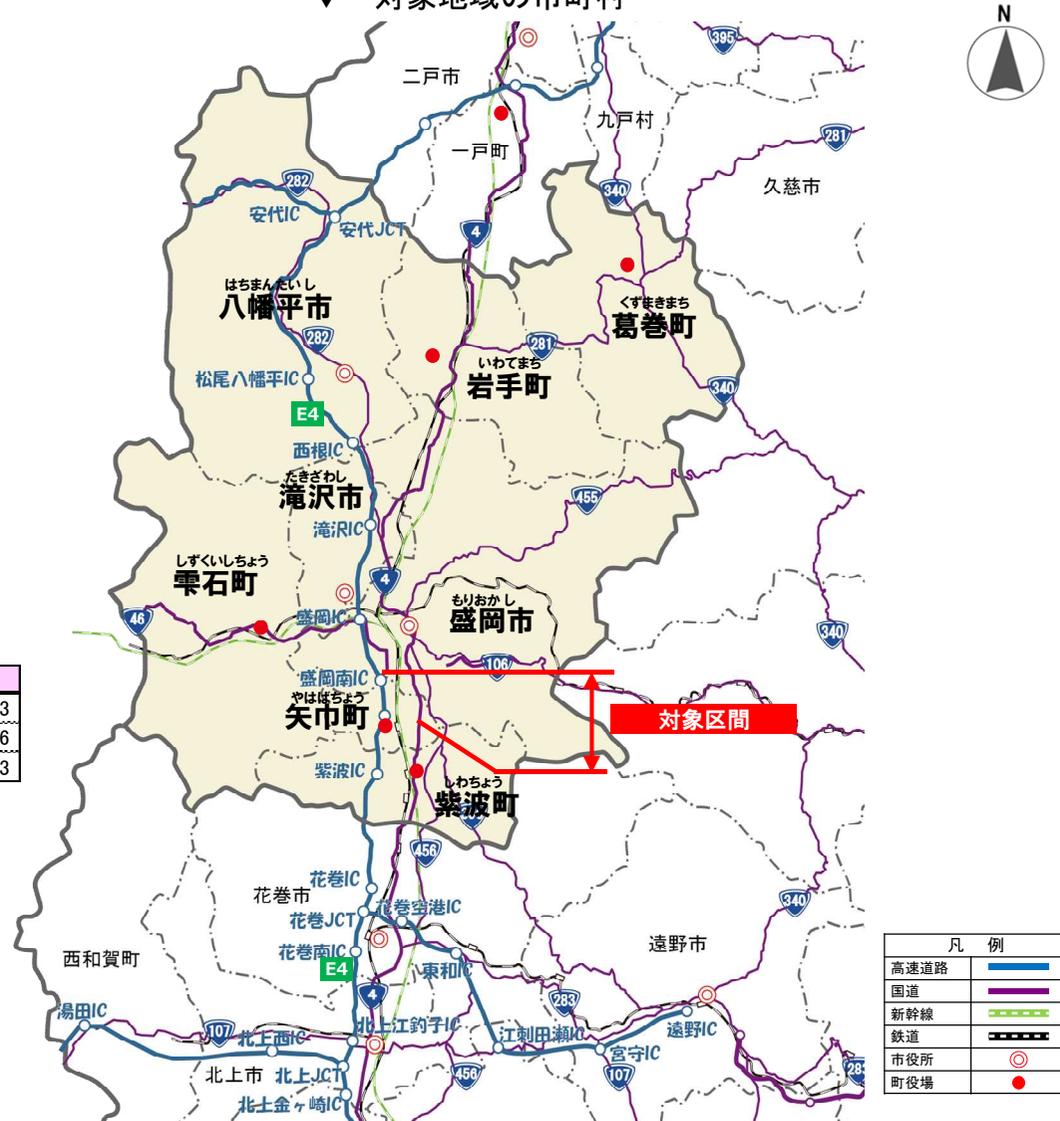
1. 評価対象区間

- ◆対象区間は、盛岡市・八幡平市・滝沢市・雫石町・葛巻町・岩手町・紫波町・矢巾町を含めた3市5町で構成される地域(以下、盛岡広域圏とする)に位置し、人口は合計で約47万人
- ◆一般国道4号、東北縦貫自動車道、東北新幹線が当該地域を南北に貫き、東西には国道46号・106号が伸びる
- ◆盛岡市を中心とした市街地エリアに商業施設や物流拠点などが集積し、岩手県の人口・経済の中心地である

▼ 対象地域位置図〈広域図〉



▼ 対象地域の市町村



	岩手県	盛岡市	八幡平市	滝沢市	雫石町	葛巻町	岩手町	紫波町	矢巾町
人口(人)	1,277,271	292,795	26,679	55,246	17,103	6,486	14,047	33,495	27,243
世帯数(世帯)	523,065	133,982	10,502	22,495	6,236	2,776	5,451	11,826	10,066
総面積(km ²)	15,275.0	886.5	862.3	182.5	608.8	435.0	360.5	239.0	67.3

	岩手県	盛岡広域圏	県南地域	県北地域	沿岸地域
人口(人)	1,277,271	473,094	490,583	117,647	195,947
世帯数(世帯)	523,065	203,334	186,750	48,927	84,054
総面積(km ²)	15,275.0	3,641.8	5,255.5	2,177.2	4,200.6
人口比率(%)	100.0	37.0	38.4	9.2	15.3

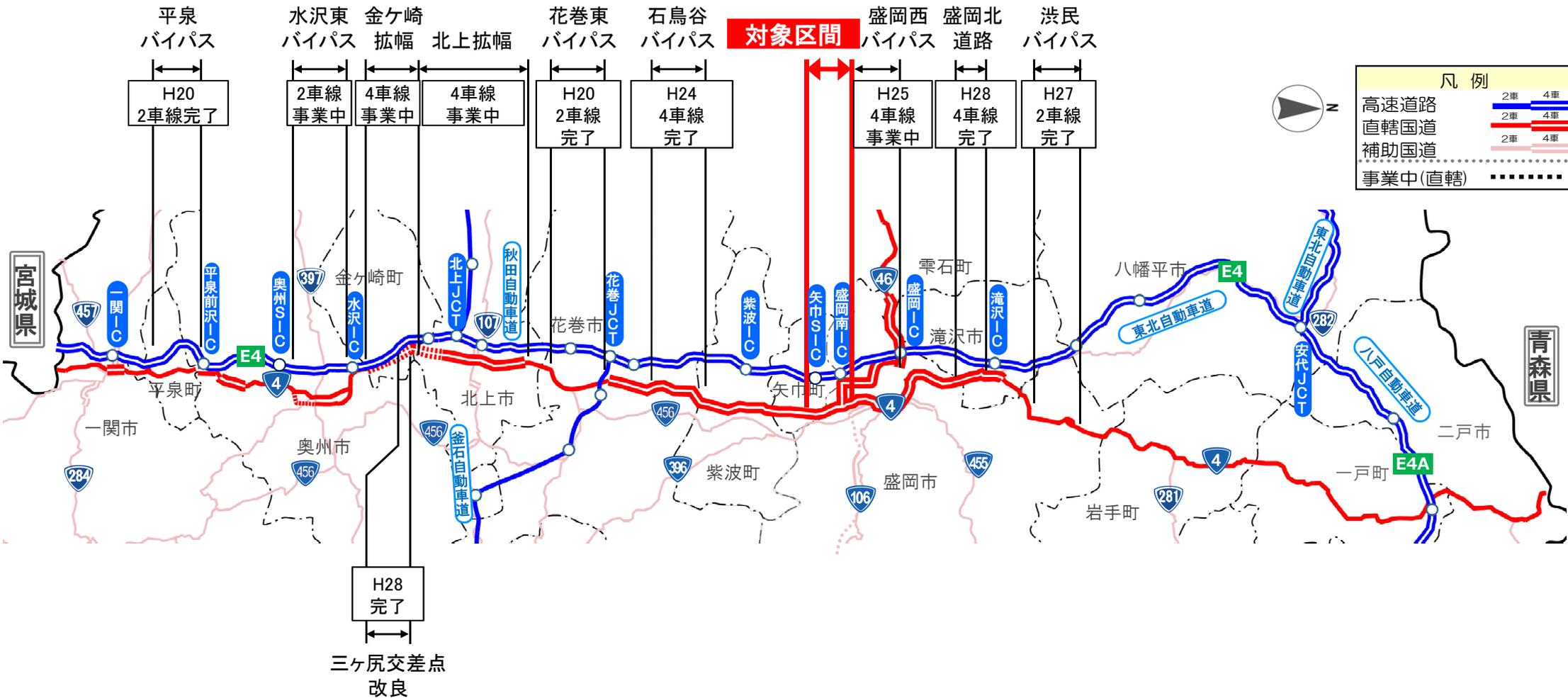
資料:・人口:住民基本台帳人口及び世帯数(H27.1現在)
 ・総面積:「統計で見る市町村のすがた」2015
 ・その他:H27国勢調査

備考:対象地域である盛岡広域圏は、「みちの盛岡広域連携都市圏ビジョン(盛岡市H28.3(H30.3改定))」において将来の広報性を共有し、連携してまちづくりを行っている

凡例	
高速道路	
国道	
新幹線	
鉄道	
市役所	
町役場	

1. 評価対象区間

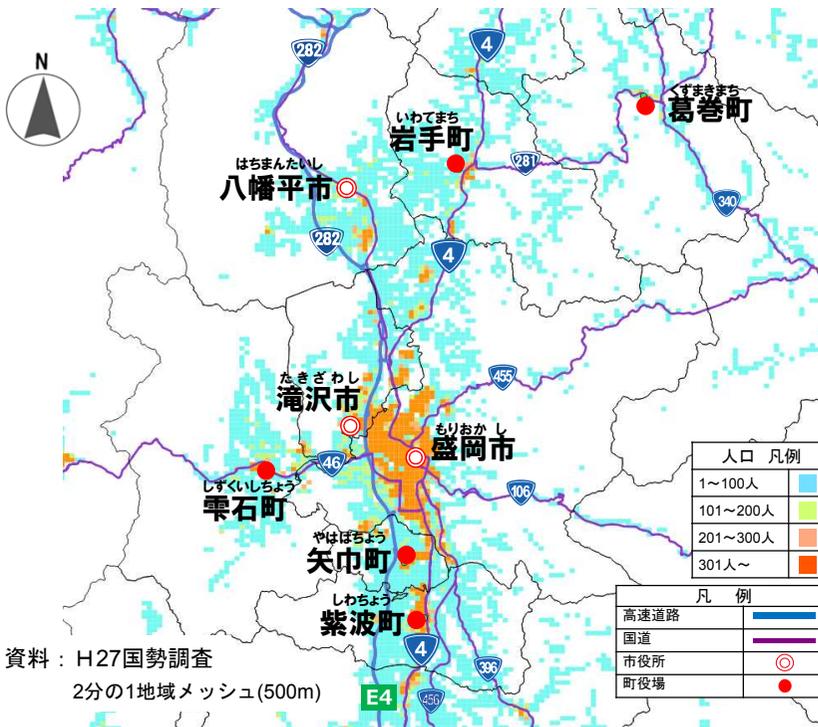
- ◆岩手県内の国道4号は、盛岡市以南では4車線化が進んでおり、バイパス・拡幅事業が行われている。
- ◆対象区間周辺では、国道46号盛岡西バイパスが平成25年12月に、渋民バイパスが平成27年4月に、盛岡北道路が平成28年3月に完了し、また平成29年度に金ヶ崎拡幅が事業化している。



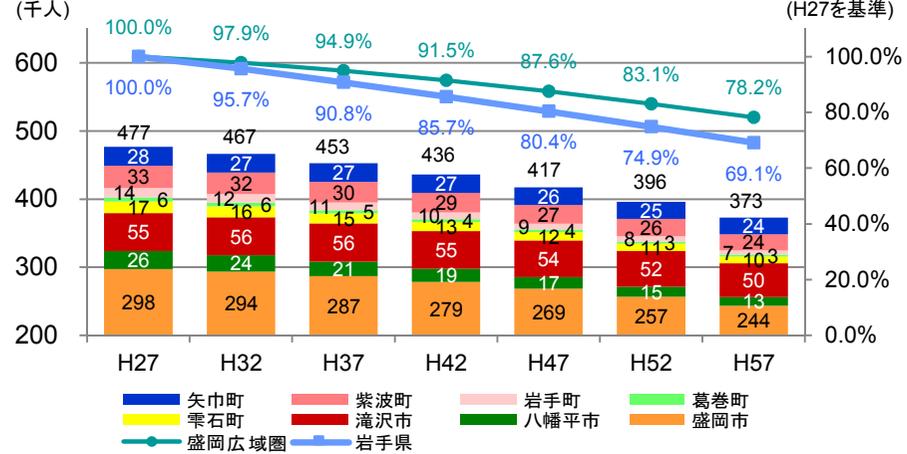
2. 地域の状況と課題 (対象地域における人口)

- ◆盛岡広域圏の3市5町は、いずれも今後の人口減少が予測されており、H27年の約2割減となる見込みである。
- ◆生産年齢人口 (H27/H22)は減少しており、今後高齢化が一層進むと見込まれている。

▼盛岡広域圏の人口分布

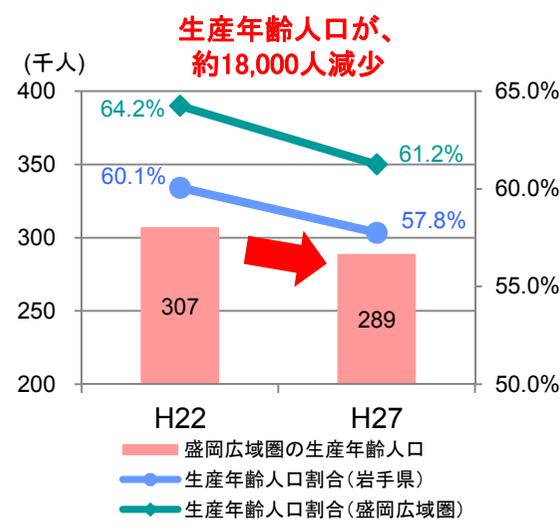


▼盛岡広域圏の将来人口推移と変化率



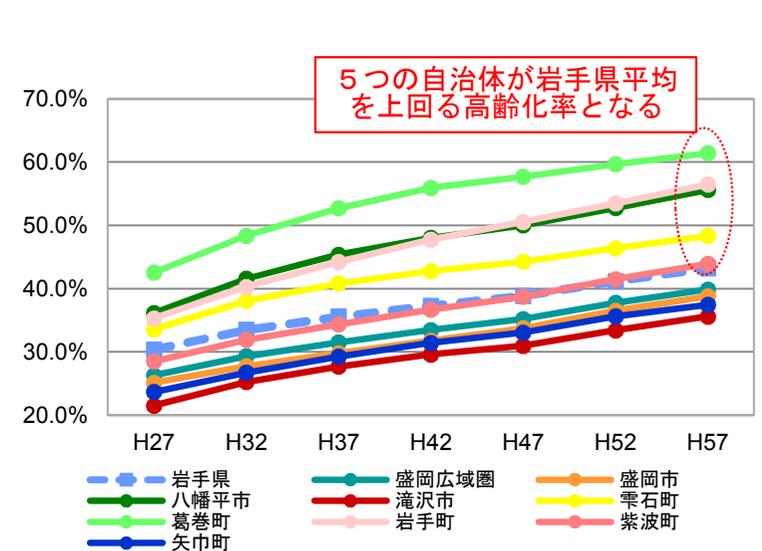
資料：「日本の地域別将来推計 (H30.3推計)」 国立社会保障・人口問題研究所

▼盛岡広域圏の人口と生産年齢人口割合の変化



資料：国勢調査(H22,27)

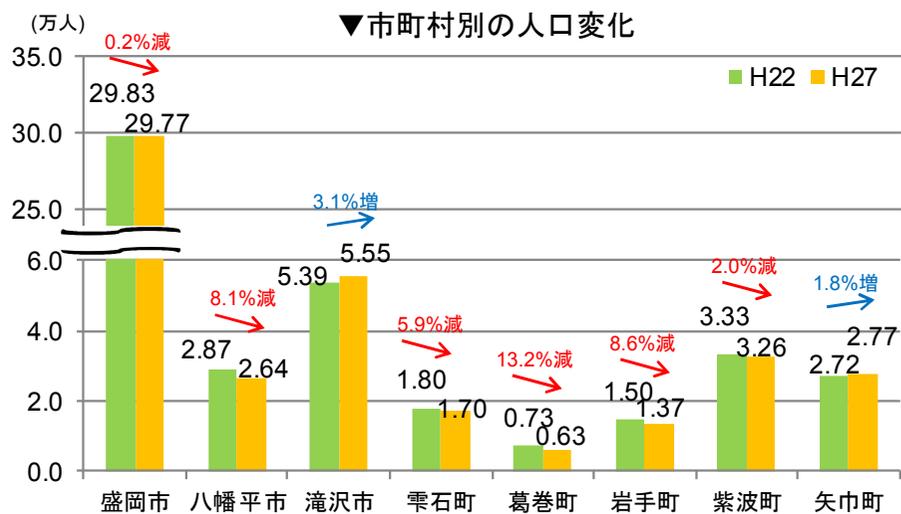
▼盛岡広域圏の将来における高齢化率の推移



資料：「日本の地域別将来推計 (H30.3推計)」 国立社会保障・人口問題研究所

2. 地域の状況と課題（対象区間沿線の人口動態）

- ◆ 滝沢市・矢巾町ではH22からH27にかけて人口が増加
- ◆ 矢巾町・紫波町は国道4号や鉄道沿線地区において人口が増加傾向にあり、生活拠点化が進行
- ◆ さらに矢巾町では岩手医科大学附属病院の移転、矢巾SICの開通、盛岡市では新産業等用地整備事業などの地域開発により交通需要の増加が想定

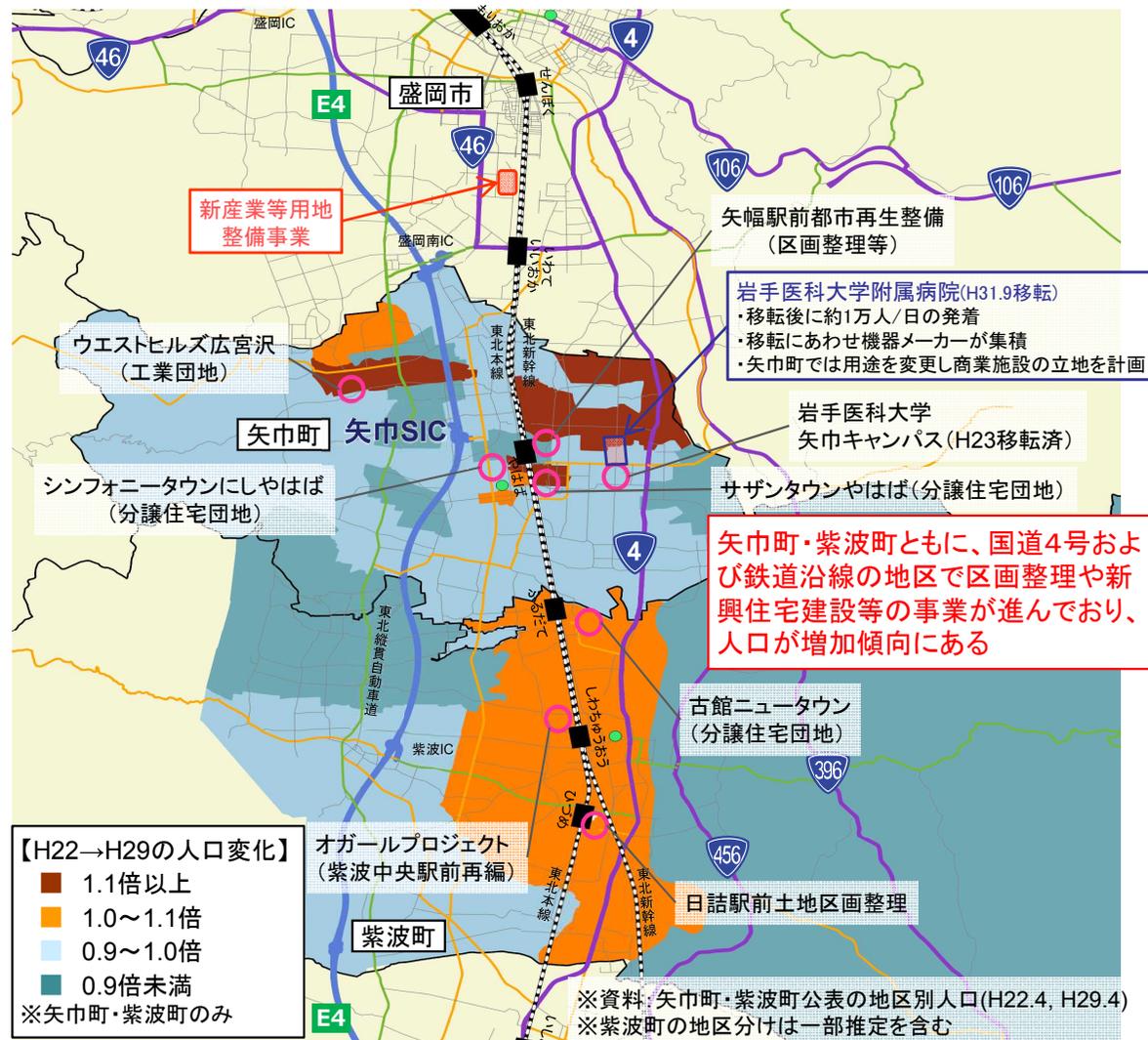


【岩手県全体の傾向として】

・岩手県の人口変化はH22: 133.01万人、H27: 127.96万人で3.8%減。

【沿線地域の特徴として】

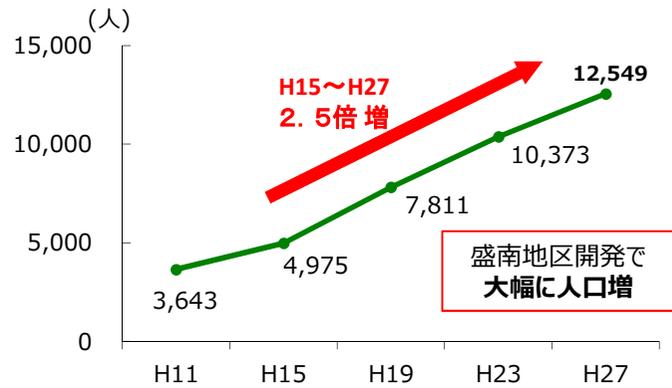
- ・滝沢市と矢巾町では人口が増加
- ・盛岡市・紫波町では、人口が減少しているが、減少率は県平均を下回る



2. 地域の状況と課題（盛岡広域圏内の流動）

- ◆盛岡市は地域の生活・経済の中心であり、盛南地区開発により人口・店舗が大幅に増加
- ◆盛岡広域圏に含まれる地域は盛岡市との結びつきが強く、滝沢市に次いで南部の矢巾町や紫波町からの流入が多く、盛岡市に通勤・通学する人の割合は、矢巾町が約4割、紫波町が約3割を占める

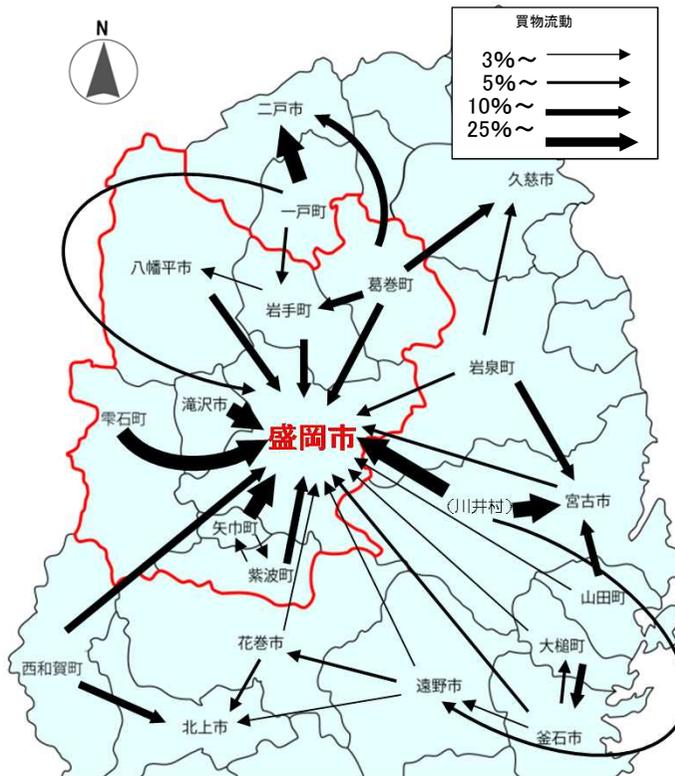
▼盛南地区開発の人口の推移(盛岡市)



▼盛南地区開発の店舗数の累積件数(盛岡市)

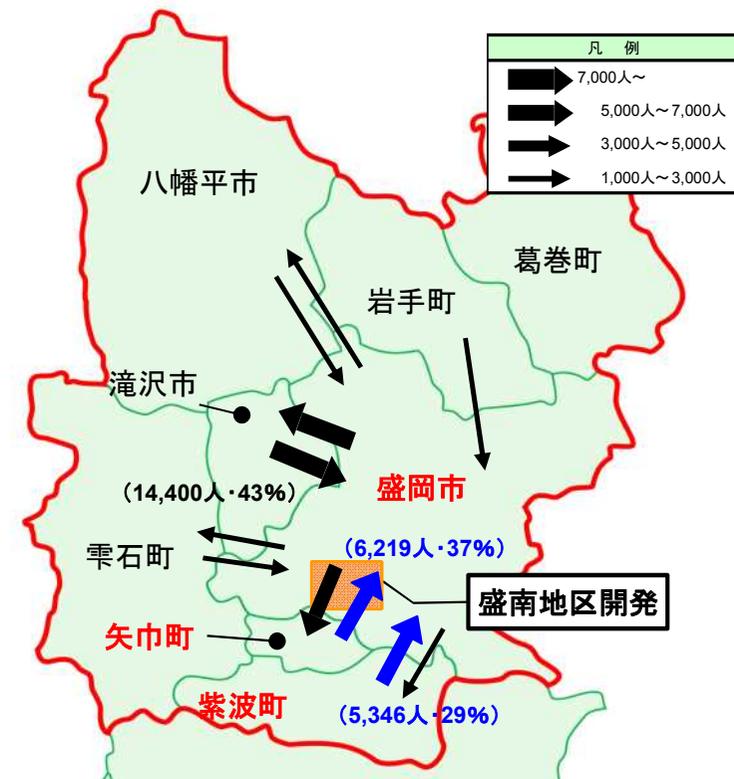


▼盛岡市周辺の買物流動



資料:H20岩手県広域消費購買動向調査

▼盛岡広域圏内の通勤・通学流動



通勤・通学流動は、盛岡市⇄矢巾町・紫波町、盛岡市⇄滝沢市の流動が多い

資料：H27国勢調査

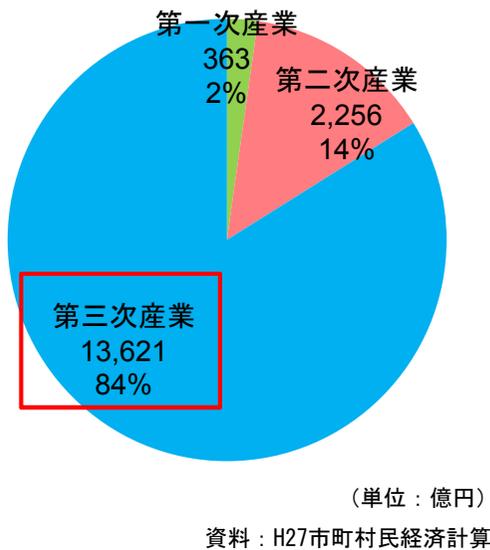
※人：盛岡市と各市町間の通勤・通学者数
 %：各市町の全就業者数に対する市町外での従業者数の割合
 *5,000人以上かつ20%以上の流動のみ数値を表記

※盛南地区開発（盛岡南都市開発整備事業）
 職住近接の新しい市街地の形成を図るものとして現都心地区の南西部、雫石川の南に位置する約313.5ヘクタールを整備した区画整理事業

2. 地域の状況と課題（盛岡広域圏の産業）

- ◆ 盛岡広域圏は、第三次産業の比率が大きく中心産業となっており、小売業販売額では県内1位
- ◆ 小売業の年間販売額は、人口一人当たりの販売額で東北1位であり、東北地方有数の商圈を形成

▼ 盛岡広域圏の産業別産出額

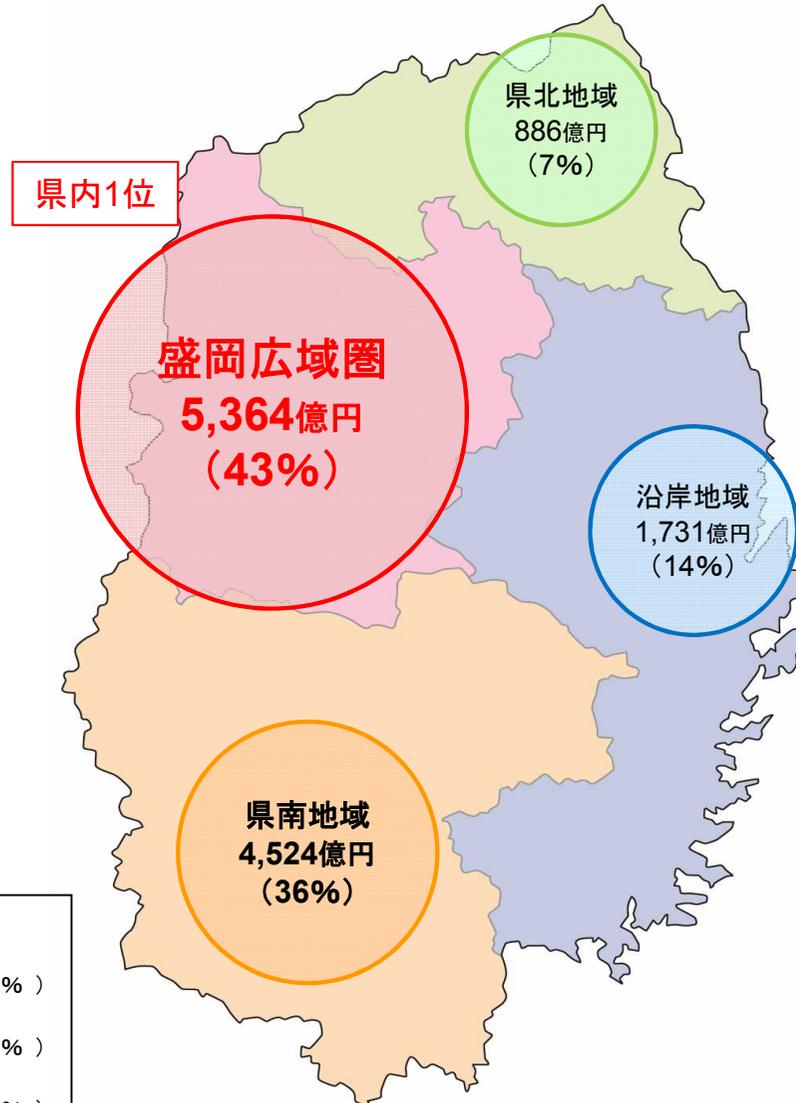


第三次産業の比率が高く産業の中心

< 盛岡広域圏の主な第3次産業 >

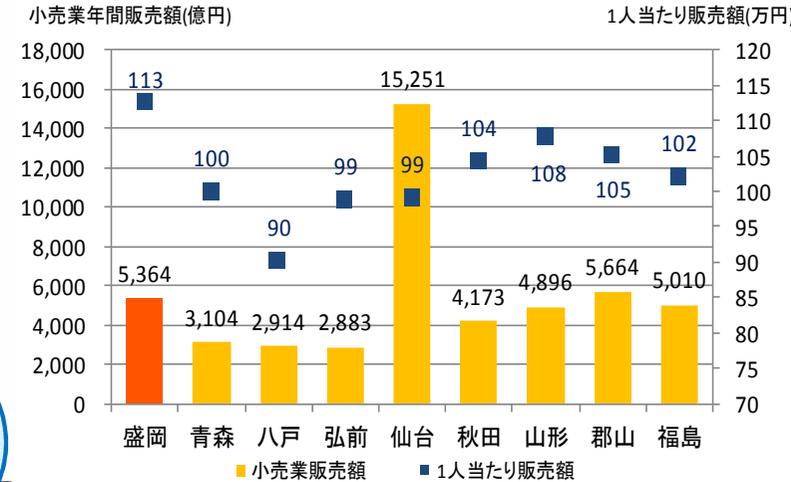
- 1位 卸売・小売業 : 約2,370億円 (第3次産業の約17%)
- 2位 不動産業 : 約1,744億円 (第3次産業の約13%)
- 3位 保険・衛生・社会事業 : 約1,672億円 (第3次産業の約12%)

▼ 広域振興圏別の小売業年間販売額



資料：H26商業統計

▼ 東北地方の広域圏における小売業年間販売額



※非公表の市町村は除く
 ※各広域圏の市町村は、「工業統計調査」における「工業地区」より定義
 ※1人当たり販売額は、小売業年間販売額を当該地域の人口で除したもの

資料 小売業年間販売額：H26商業統計
 人口：H27国勢調査

一人当たり販売額は盛岡広域圏が東北で1位

2. 地域の状況と課題 (物流・産業)

- ◆対象地域には、(主)盛岡和賀線、(県)不動盛岡線の周辺に、北東北唯一の岩手トラックターミナルが立地する岩手流通センターや盛岡中央卸売市場、盛岡貨物ターミナルなどの物流拠点が存在。
- ◆物流拠点が集中する地区において、速達性を確保できる道路を整備し、物流の効率化を図る必要がある。



▼物流事業者の声

・営業開始と同時に流通が始まるため、周辺市道では通勤時間帯の通勤車両などと混ざり混雑している
 ・国道4号は沿線に施設が張り付いているため混雑しており、アクセスコントロールされた路線が必要と感じている (H29.6 ヒアリング)

盛岡市中央卸売市場



【役割】岩手県における卸売市場の中核であり、青果・水産品等の生鮮食料品の集荷・取引等の機能を担う

東北6箇所中第3位の取扱額



盛岡貨物ターミナル



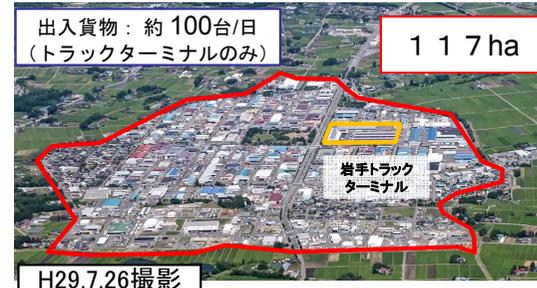
【特徴】北東北唯一のインランドデポ※の設置により、大型の海上輸送コンテナを取り扱える、東北地方では数少ない鉄道拠点

貨物ターミナルは東北では盛岡と仙台の2箇所のみ

年間104万トン程度を取扱

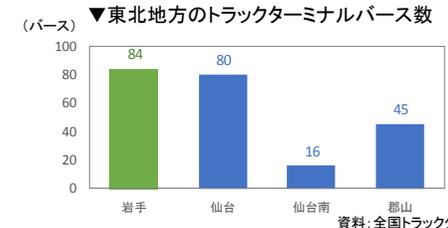
資料: 物流事業者ヒアリング結果 (H30.8)

岩手流通センター・岩手トラックターミナル



【役割】物資輸送の中核的施設であり、北東北唯一の岩手トラックターミナルは一般貨物自動車運送事業者等に施設を共用することによって物流の円滑化、交通公害の防止、運送事業の健全な発展に寄与。

バース数は東北最多



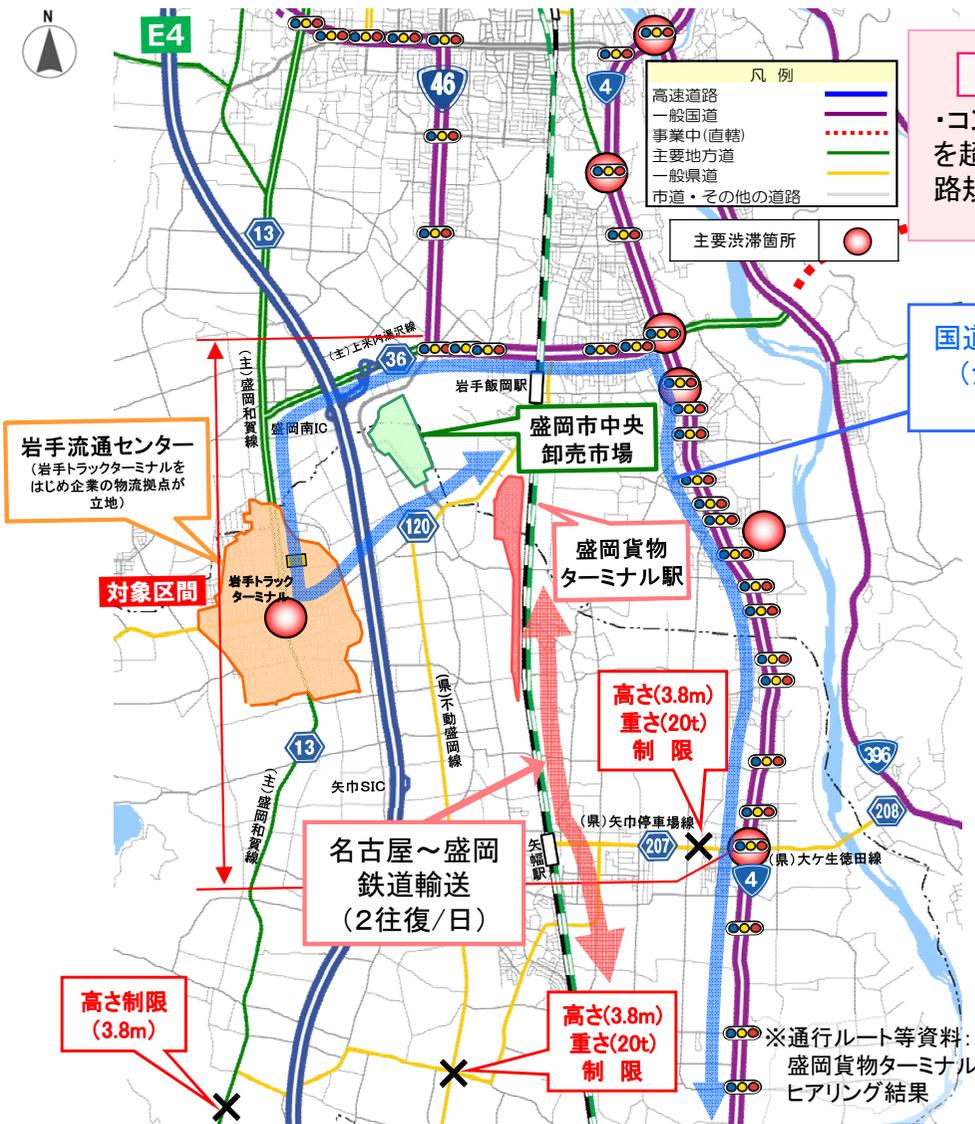
※インランドデポ: 海上コンテナの積み下ろし能力を備え、また通関・保税機能も有する施設
 ⇒輸出入貨物のリードタイム・コストを削減できる手法

※バース: トラックを停めて積卸しを行うスペース

2. 地域の状況と課題 (物流・産業)

- ◆岩手県は、国道4号沿線に自動車関連企業が集積し、東北6県の自動車及び自動車関連部品を含む、輸送用機械器具製造品出荷額は東北1位。
- ◆盛岡貨物ターミナル駅から金ヶ崎町にあるトヨタ自動車東日本(株)岩手工場への自動車部品輸送は、周辺道路に通行不可能な区間があるため、やむを得ず速度低下区間や主要渋滞箇所が存在する国道46号・国道4号を經由している。

▼盛岡貨物ターミナルから自動車工場へのルート

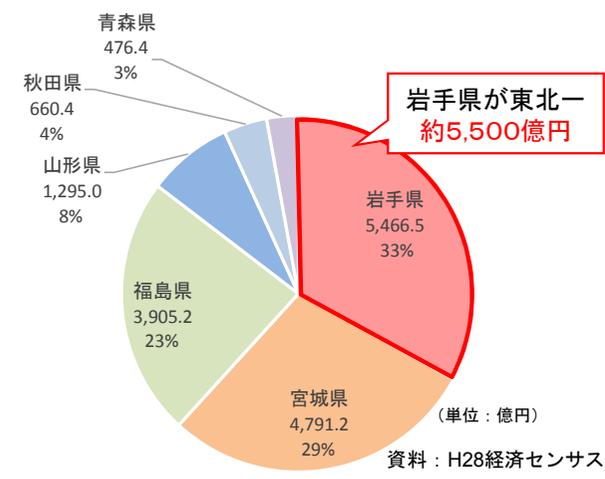


▼盛岡貨物ターミナルの声

・コンテナを搭載した場合は、特殊車両通行制限を超えてしまうため、大型車誘導区間であり、道路規格の高い国道4号を使っている。
(H30.8 ヒアリング)

国道4号を利用し、貨物ターミナル～岩手県中部(金ヶ崎工業団地)間を往復(約60往復/日)
※他路線はコンテナ貨物車が通行できない

▼東北地方県別の輸送用機械器具製造品出荷額



▼国道4号を走行する31フィートコンテナを積載した貨物トラック



海上コンテナを積載した場合、荷台の高さは約4.1mとなり、3.8mを超えてしまう

▼盛岡貨物ターミナル駅へ向かうトヨタ・ロングパス・エクスプレス

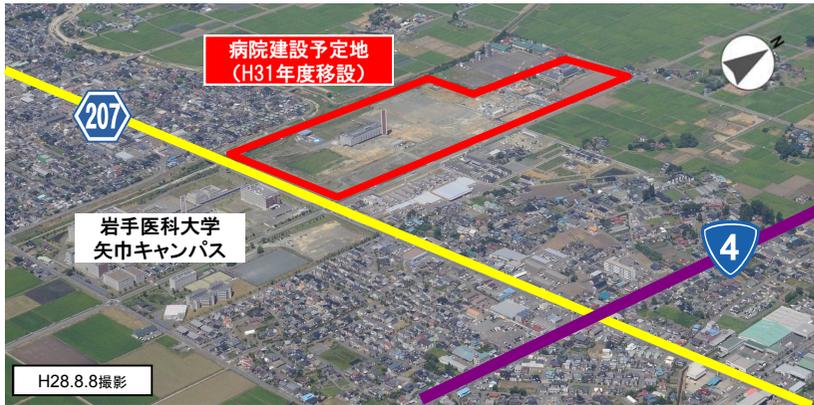


・名古屋南貨物駅～盛岡ターミナル駅 2往復/日
・自動車関連工場向けの部品を運送(盛岡貨物ターミナルを利用する主要な企業では、取扱い貨物のうちトヨタ自動車関連が8割を占める)

2. 地域の状況と課題（医療）

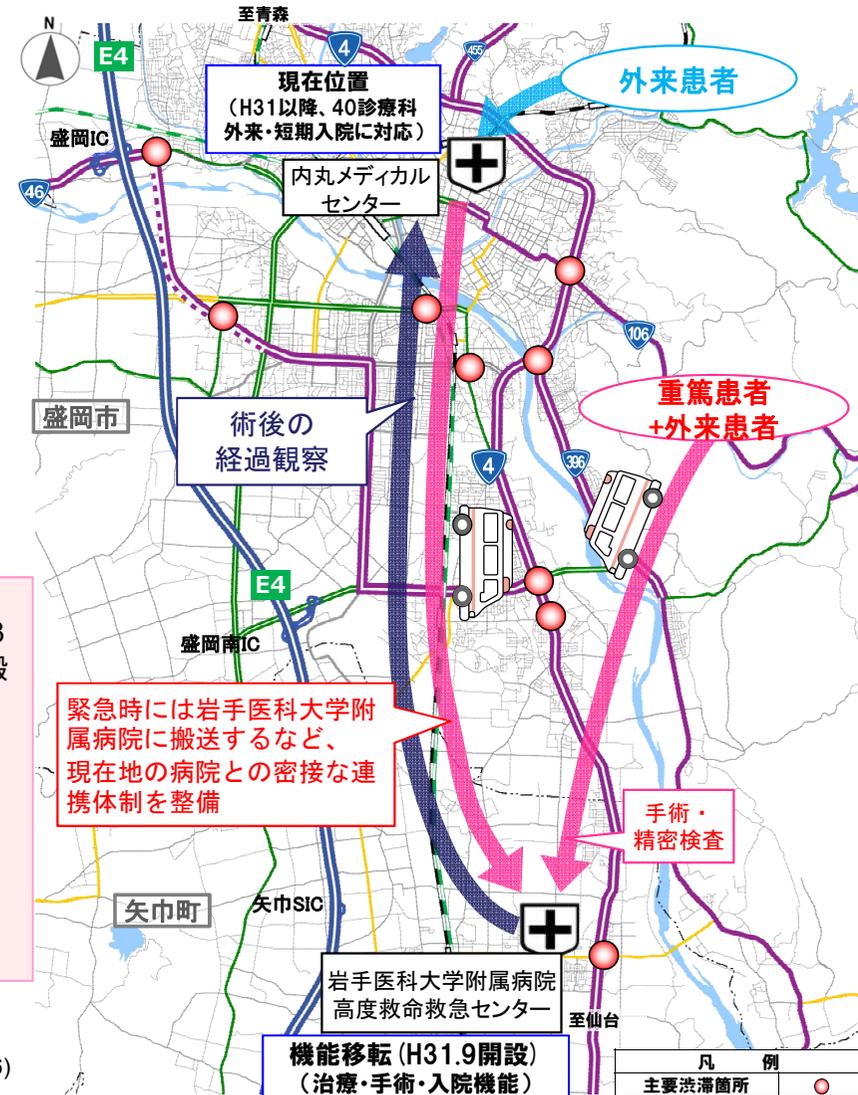
- ◆岩手県の第三次救急医療施設である岩手医科大学附属病院の地域別搬送件数は盛岡市が半数以上。
- ◆岩手医科大学附属病院は、平成31年9月に盛岡市内丸から矢巾町に移転。移転後には現在位置と緊急時などの密接な連携体制を構築するとしているが、搬送経路となる国道4号には主要渋滞箇所が多数存在し、速達性を阻害。

岩手医科大学矢巾キャンパス整備計画基本構想(全体36ha)

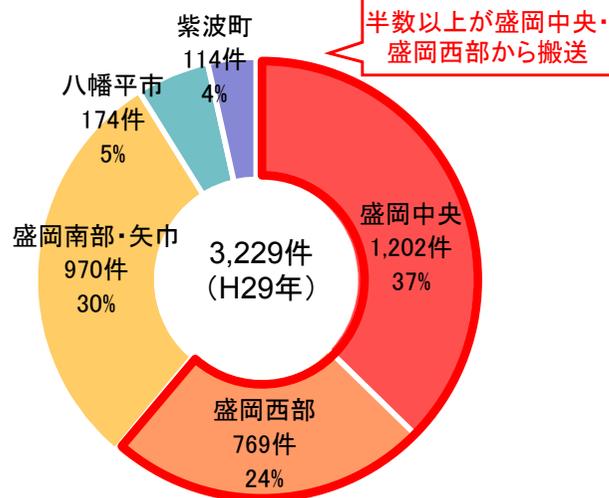


平成23年度 基本計画策定 矢巾キャンパス移転完了
 平成24年度 ドクターヘリポート竣工
 平成31年9月 岩手医科大学附属病院(高度救命救急センター)開院
 →1,000床規模の特定機能病院として整備し、岩手県の中核的な病院としてだけでなく、将来的には北東北・北海道を視野に入れた三次医療の拠点エリアとして位置付けていくことを目指している

▼岩手医科大学附属病院の移転後の医療体制



▼高度救命救急センター・岩手医科大学への搬送件数(出動元)



▼岩手医科大学附属病院の声

- ・岩手県内には第三次医療救急施設が3施設あるが、重症患者は岩手医大に搬送される。
- ・矢巾へ移転した後は、病院に到達するまでの街中の移動に時間がかかる。とくに国道4号の朝夕の渋滞は問題。
- ・移転後は医師が約700~800人、看護師が約1,000人、その他すべての職員を合わせると、約3,000人前後の人数が矢巾へ勤務することになる

※岩手医科大学附属病院
ヒアリング結果 (H29.6)

※資料:盛岡消防ヒアリング

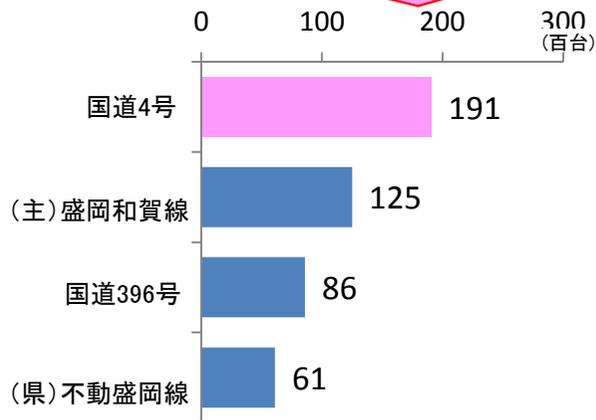
※岩手日報 (H28.5.17)、岩手医科大学HPより作成

3. 道路交通の状況と課題（周辺道路の交通需要）

◆H22ODの交通需要では、通勤・通学などでつながりが強い盛岡市と矢巾町・紫波町の交通需要が大きく、矢巾・紫波～盛岡の交通は主に国道4号が担っている

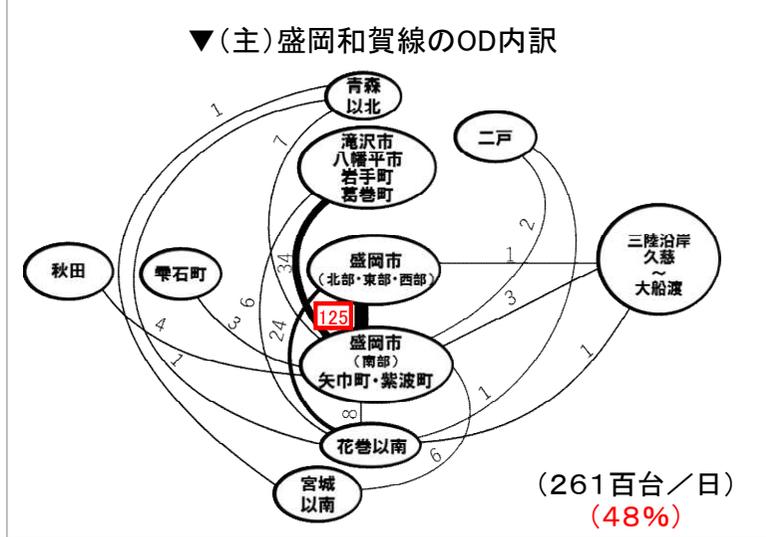
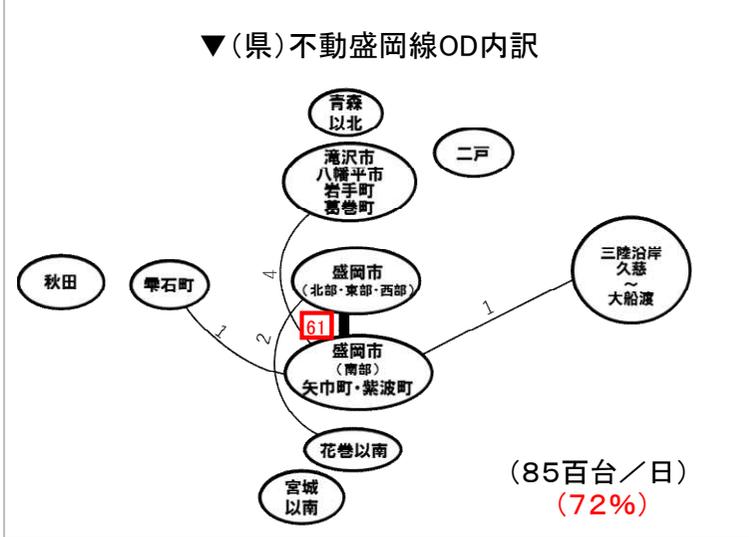
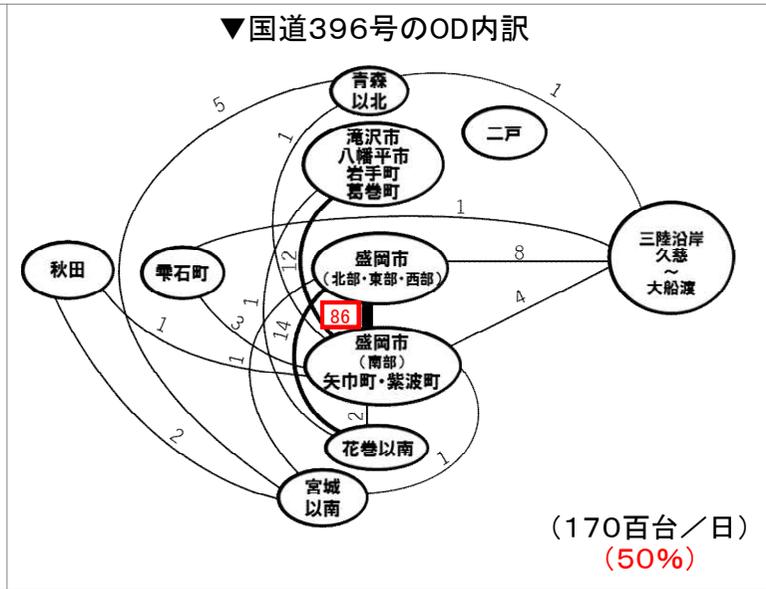
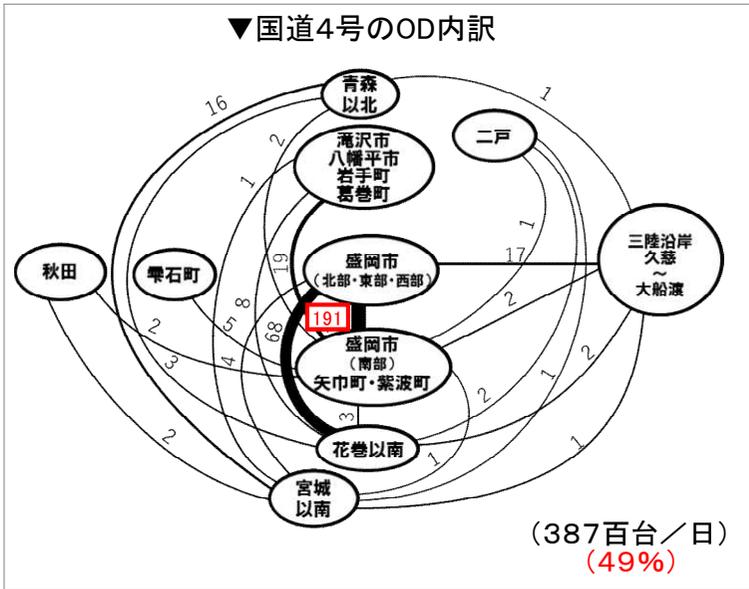
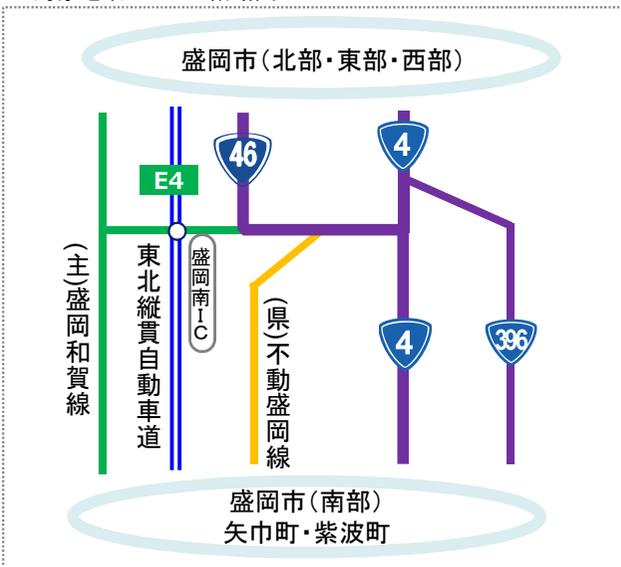
▼矢巾・紫波～盛岡市間の発着交通の利用道路

矢巾・紫波～盛岡の交通は主に国道4号が担っている



(H22ベースH29交通量推計)

▼対象地域のルート概略図

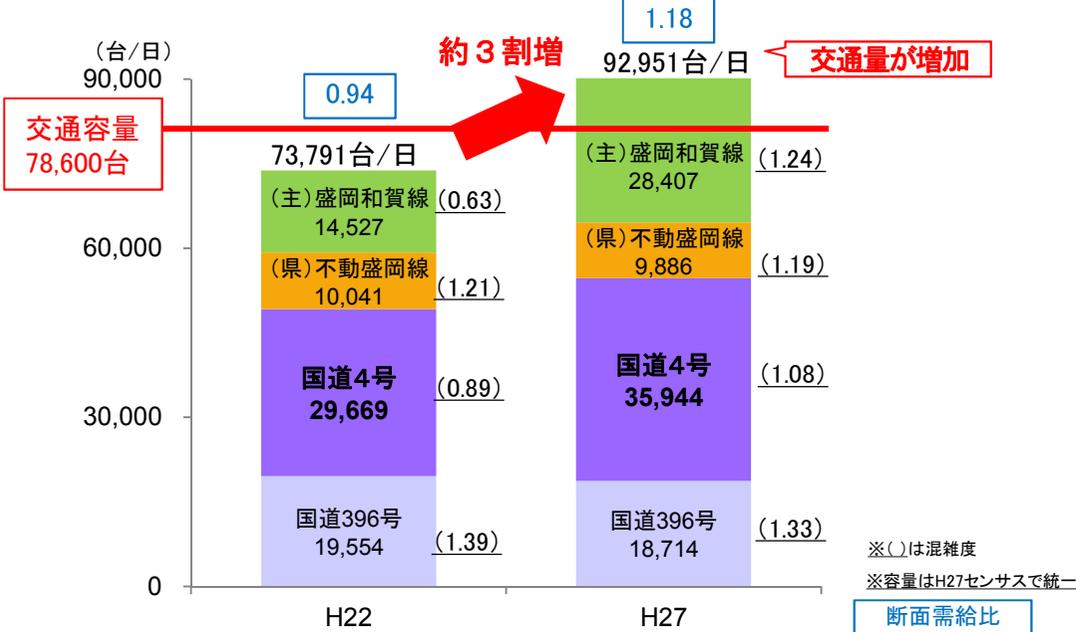


※()は各路線の交通量推計結果、(赤字)は盛岡市⇄盛岡市南部・矢巾町・紫波町のODが占める割合

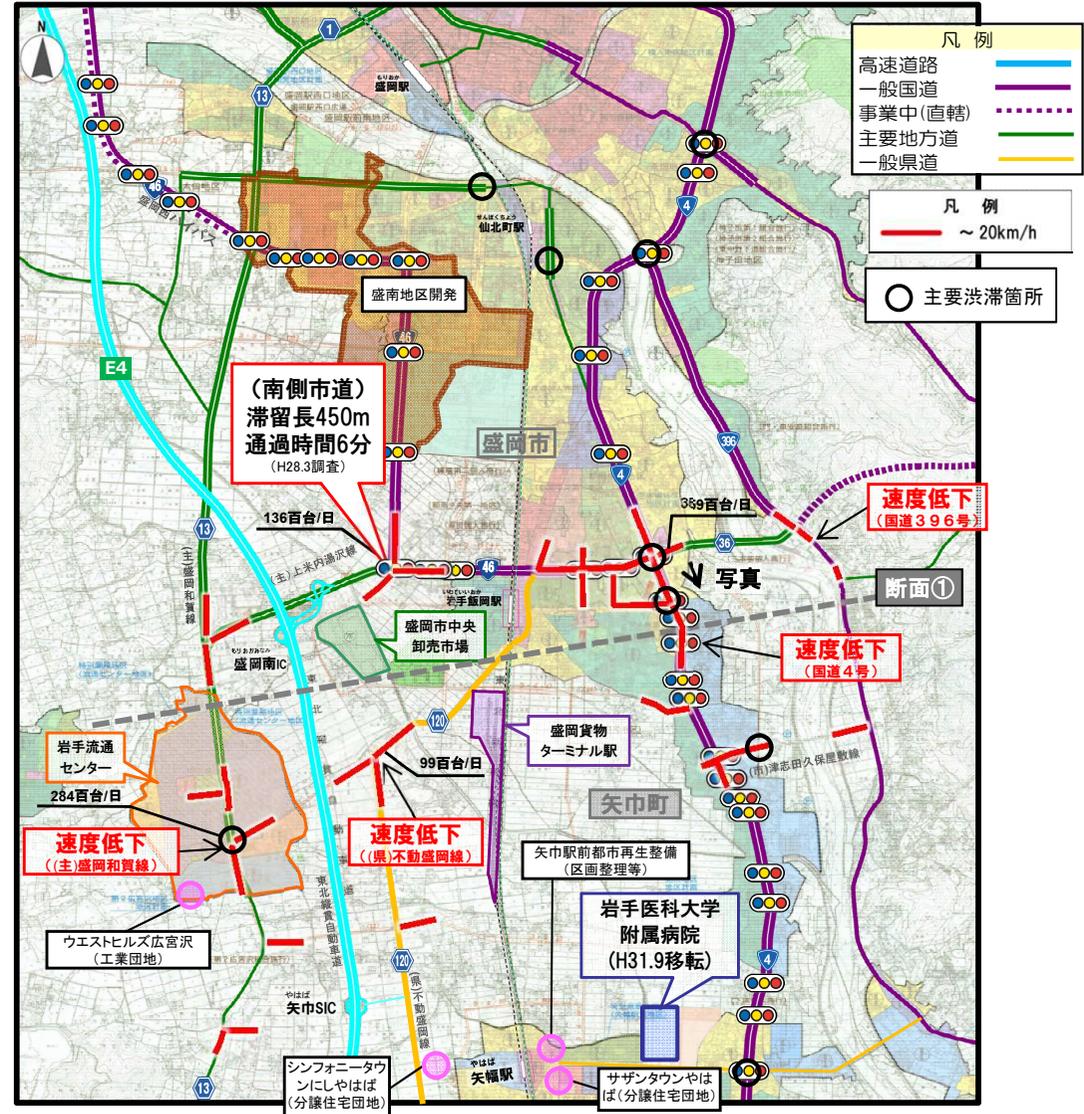
3. 道路交通の状況と課題（周辺道路の交通現況）

- ◆ 矢巾町・紫波町の生活拠点形成や盛南地区開発により、国道46号以南の交通量が増加し交通容量を超過
- ◆ 断面での交通容量が不足しているため、国道4号だけでなく、国道396号、国道46号（旧上米内湯沢線）、(県)不動盛岡線など南北軸の各路線で速度低下が発生

▼ 盛岡南地区（断面①）の交通量



▼ 盛岡市～矢巾町間の主要道路の速度低下状況



【写真】国道4号（盛岡南IC入口交差点南側）の渋滞状況



▼ 道路利用者の声

- ・ 搬出入には主に (主) 盛岡和賀線をつかっており、国道4号は慢性的に混んでいるので避けている。
- ・ ただ (主) 盛岡和賀線は、冬期には圧雪・幅員狭小となり走行できず、混んでいる国道4号を使わざるを得ない。
- ・ 医大移転後は交通の流れが大きく変わると思われ、矢巾周辺の混雑も懸念される。

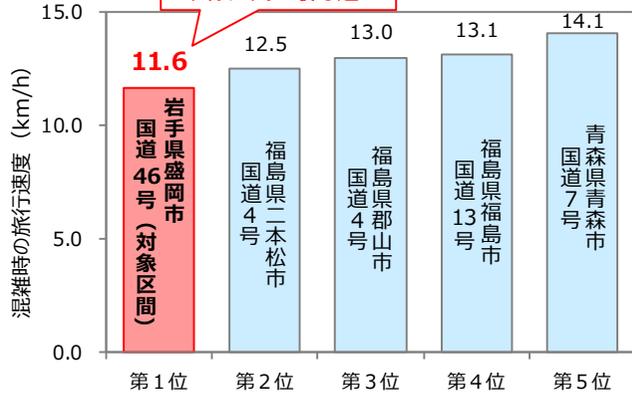
※岩手流通センター、盛岡貨物ターミナルを利用する物流事業者ヒアリング結果 (H29.6)

3. 道路交通の状況と課題 (国道4号・国道46号の旅行速度)

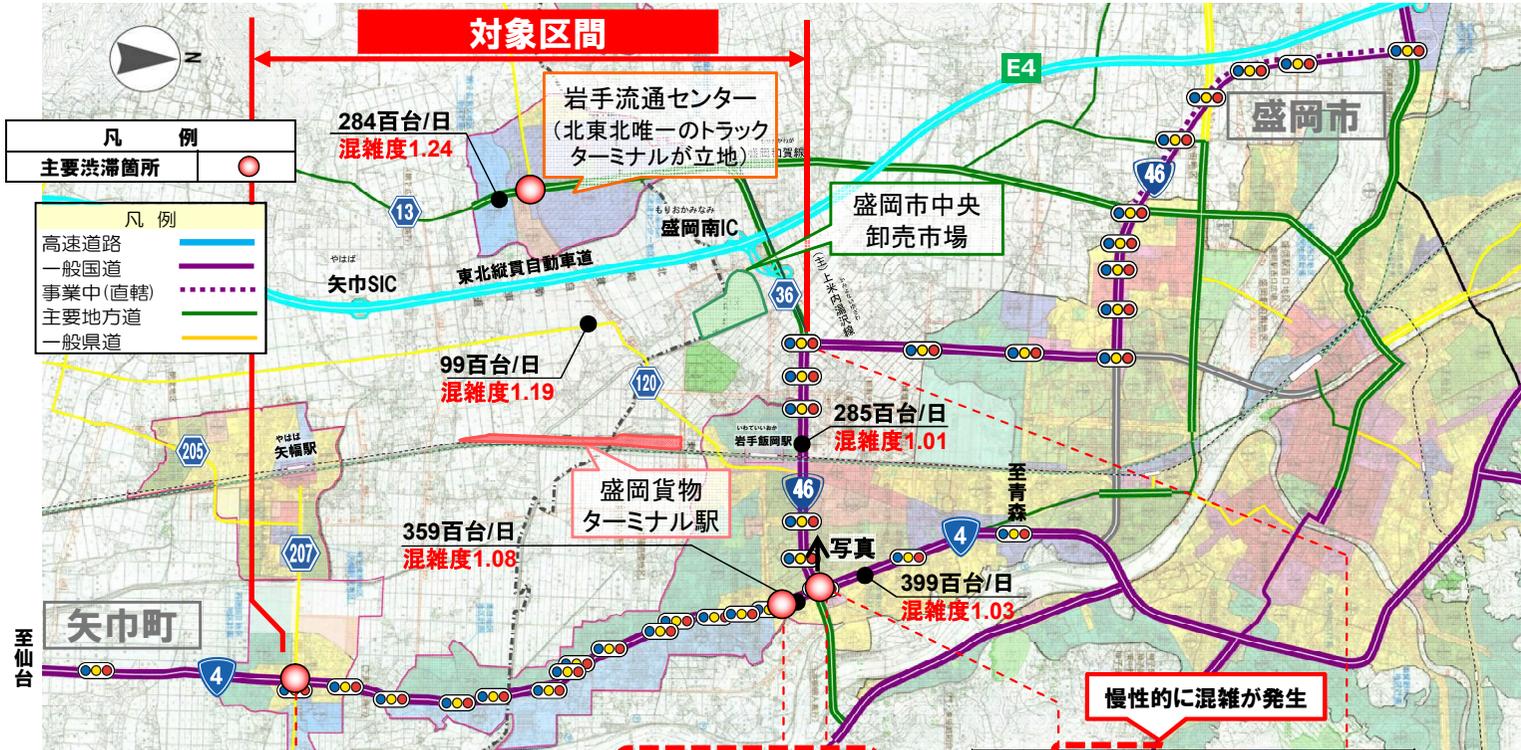
- ◆対象地域には、北東北唯一の岩手トラックターミナル等の物流拠点が存在し、物流拠点からの4号へのアクセスルートには、東北地方で最も旅行速度が低い区間や主要渋滞箇所が存在し速達性・定時性に課題。
- ◆国道4号、国道46号は、旅行速度が20km/hを下回る箇所が連続し、降雪日には速度低下区間が拡大。

▼東北内4車線直轄国道の混雑時旅行速度ワースト5 (DID区間、事業中区間除く)

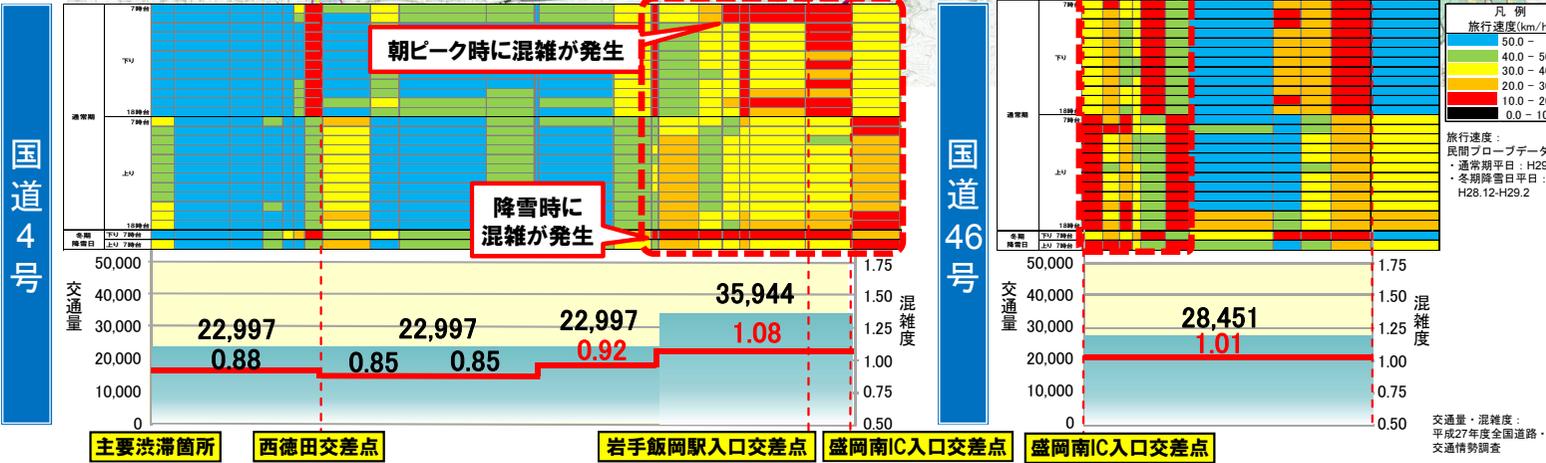
東北地方の直轄国道4車線区間で最も遅い



資料 交通量: 全国道路・街路交通情勢調査 (H27)



慢性的に混雑が発生



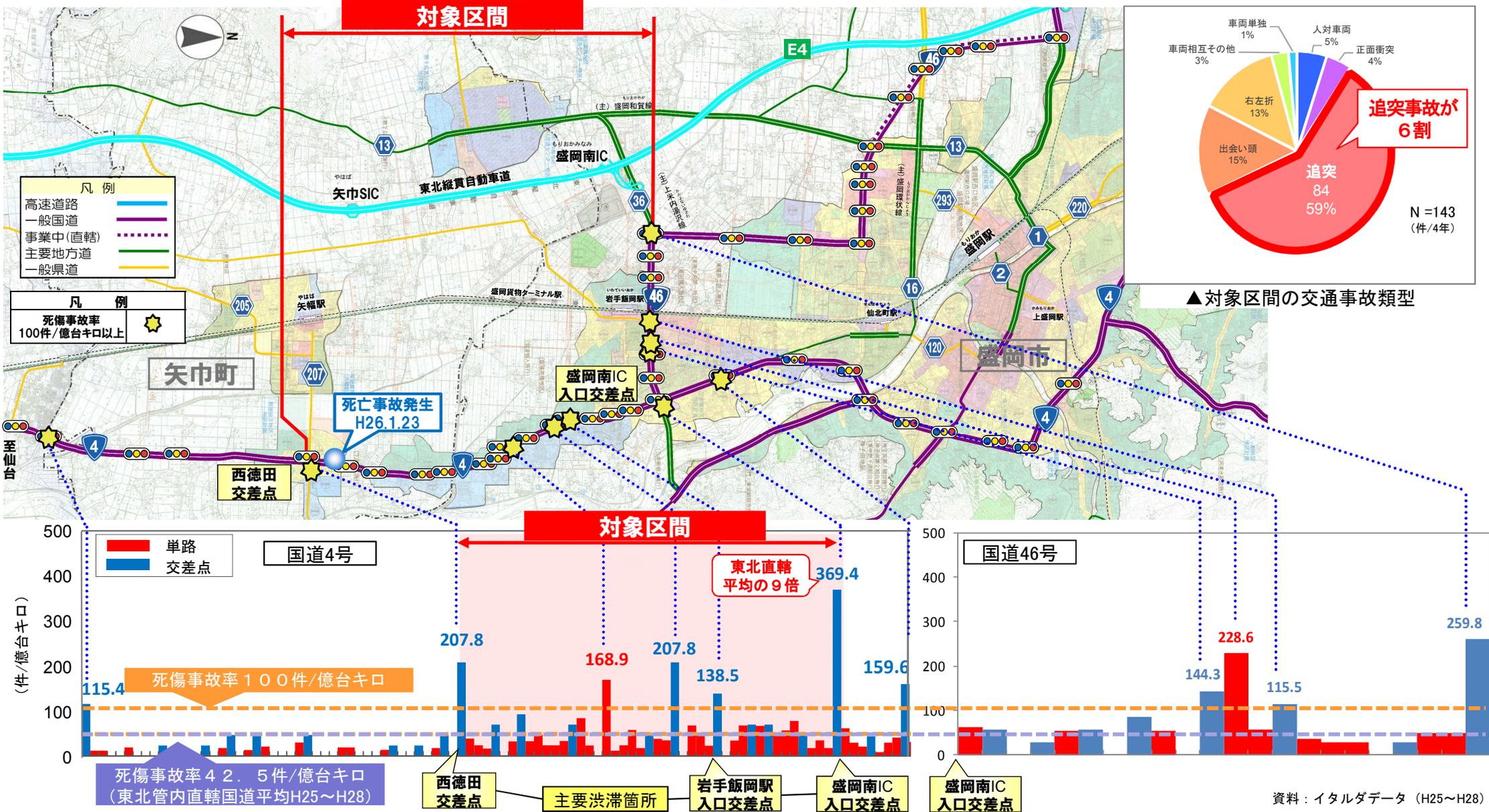
凡例
旅行速度 (km/h)
50.0
40.0 - 50.0
30.0 - 40.0
20.0 - 30.0
10.0 - 20.0
0.0 - 10.0

旅行速度 - ブレーダ
民間プロセッサ
通常期平日: H29.9-11
冬期降雪日平日:
H28.12-H29.2

交通量・混雑度:
平成27年度全国道路・街路
交通情勢調査

3. 道路交通の状況と課題 (交通事故)

- ◆ 矢巾町、盛岡市付近の国道4号では死傷事故が多く発生しており、特に盛岡南IC入口交差点から西徳田交差点の間では死傷事故率が東北地方の直轄国道平均の約9倍の交差点など事故率が高い区間が複数存在。
- ◆ 区間全体にわたって事故が多発しており、混雑しているうえに沿道出入りが多いため、追突事故の割合が高い。



4. 地域に配慮すべき事項（自然環境）

◆既存文献から重要な動植物が分布しているため、影響をできる限り軽減する必要がある。



盛岡南公園

人と自然との触れ合いの活動の場として、規模の大きい公園で、隣接する鹿妻穴堰*の遊歩道と併せて身近な散策休憩地、野外活動地として楽しむことができる。

*鹿妻穴堰：400年以上前に作られた農業用の用水路で、現在も周辺地域の農業用水の確保に役立てられている

植物

■周辺で確認されている重要種

- サクラタデ（環境省：準絶滅危惧、岩手県：）
- タコノアシ（環境省：準絶滅危惧、岩手県：）
- ナガエミクリ（環境省：準絶滅危惧、岩手県：）

出典：「レッドリスト2018（平成30年5月）」（環境省）
「いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物（2014年版）（平成26年3月）」（岩手県）

動物

■周辺で確認されている重要種

- オオタカ（環境省：準絶滅危惧、岩手県：Bランク）
- ノスリ（岩手県：Dランク）
- チゴハヤブサ（岩手県：Dランク）
- ヒナコウモリ（岩手県：Bランク）
- トウキョウダルマガエル（環境省：準絶滅危惧、岩手県：Dランク）
- カマツカ（環境省：岩手県：DDランク）
- ドジョウ（環境省：情報不足）
- サクラマス（環境省：準絶滅危惧）
- マルタニシ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類）
- マシジミ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類、岩手県：Bランク）

出典：「レッドリスト2018（平成30年5月）」（環境省）
「いわてレッドデータブック 岩手の希少な野生生物（2014年版）（平成26年3月）」（岩手県）

ノスリ（岩手県：Dランク）

タカ目タカ科の猛禽類で、全長50～55cm程。平地から低山に生息し、農耕地等でネズミやモグラなどを捕食する。



チゴハヤブサ（岩手県：Dランク）

ハヤブサ目ハヤブサ科の猛禽類で、全長35cm程。夏鳥として国内に渡来し、平野部の社寺林や屋敷林に営巣。大形昆虫や小鳥、コウモリなどを捕食する。



オオタカ（環境省：準絶滅危惧、岩手県：Bランク）

タカ目タカ科の猛禽類で、全長50～55cm程。平地から低山に生息し、林縁などで中形鳥類などを捕食する。



写真の出典：「いわてレッドデータブック岩手の希少な野生生物web版」

5. 政策目標の素案 (道路交通・地域の課題とその原因)

	課題	原因
物流 ・ 産業	<p>○物流拠点が多数存在しており、関連する交通が集中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象地域には、(主)盛岡和賀線、(県)不動盛岡線の周辺に、北東北唯一の盛岡トラックターミナルが立地する岩手流通センターや盛岡中央卸売市場、盛岡貨物ターミナルなどの物流拠点が存在 ・盛岡貨物ターミナル駅から金ヶ崎町にあるトヨタ自動車東日本(株)岩手工場への自動車部品輸送は、周辺道路に通行不可能な区間があるため、やむを得ず速度低下区間や主要渋滞箇所が存在する国道46号・国道4号を經由している 	<p>○交通容量不足</p> <p>○大型特殊車両の通行不可区間の存在</p>
医療	<p>○岩手医科大学附属病院(H31矢巾町移転予定)移転後の救急医療における速達性に課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手医科大学附属病院は、平成31年9月に盛岡市内丸から矢巾町に移転。移転後には現在位置と緊急時などの密接な連携体制を構築するとしているが、搬送経路となる国道4号には主要渋滞箇所が多数存在し、速達性を阻害。 	<p>○国道4号の速達性が不十分</p> <p>○医療拠点へのアクセスが脆弱</p>
渋滞 ・ 事故	<p>○盛岡市～矢巾町間における国道4号で交通混雑が発生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛岡市は地域の生活・経済の中心であり、周辺市町からの通勤・通学・買物等での流入が集中 ・矢巾町・紫波町の生活拠点形成や盛南地区開発により、国道46号以南の交通量が増加し交通容量を超過、周辺道路にも通過交通が流入し混雑が発生 <p>○対象区間全体で事故が多発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・矢巾町、盛岡市付近の国道4号では東北平均の約9倍の死傷事故率の交差点が存在するなど、区間全体にわたって事故が多発しており、混雑しているうえに沿道出入りが多いため、追突事故の割合が高い。 	<p>○交通容量不足</p> <p>○慢性的な交通混雑による加減速の多さ</p>

政策目標 (案)

物流拠点からのアクセス性向上・産業活性化支援

救急医療体制を確立する速達性の確保

交通容量の確保による渋滞の緩和・交通事故の削減

岩手県の総合計画

【岩手県】いわて県民計画	内容（抜粋）
社会資本・公共交通・情報基盤 ～「いわてを支える基盤」の実現～	<p>■交流・連携や物流の基盤となる道路整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物流の効率化により産業の振興を支援するため、企業のニーズ等を踏まえた物流の基盤となる道路の整備を推進 <p style="text-align: right;">【物流拠点からのアクセス性向上・産業活性化支援】</p>

盛岡市の総合計画

【盛岡市】総合計画	内容（抜粋）
健康づくり・医療の充実	<p>■医療機関との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての人が必要な医療サービスをいつでも受けられるよう、医療機関の連携と機能分担を推進し、信頼される地域医療と救急体制を充実 <p style="text-align: right;">【救急医療体制を確立する速達性の確保】</p>
交通環境の構築	<p>■都市活動を支える幹線道路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス・自動車・自転車などの車両の円滑な走行空間や、安全な歩行空間の確保など、交通環境の改善を図るための幹線道路の整備を推進 <p style="text-align: right;">【交通容量の確保による渋滞の緩和・交通事故の削減】</p>

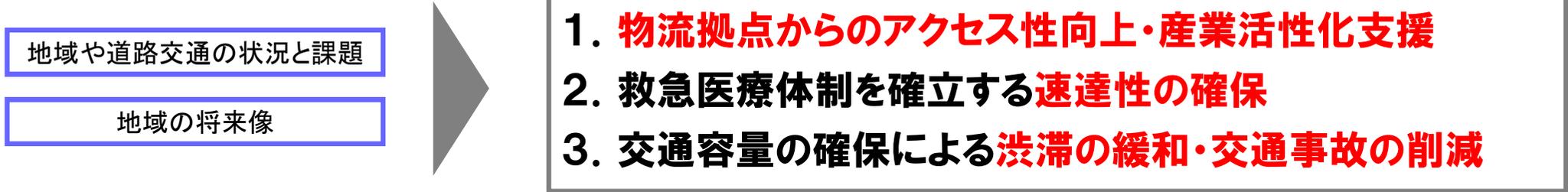
矢巾町の総合計画

【矢巾町】第7次矢巾町総合計画	内容（抜粋）
医療体制の充実	<p>■安心して医療が受けられる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛岡広域医療圏を構成する医師会及び各市町、関係機関と連携し、ニーズに対応した医療体制の確保を図るとともに、かかりつけ医の定着に向けた広報活動に努めます。 <p style="text-align: right;">【救急医療体制を確立する速達性の確保】</p>
道路整備の推進	<p>■主要道路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートインターチェンジ周辺、岩手医科大学附属病院周辺の道路整備及び矢幅駅西口線の延伸計画を進めるほか、徳田橋架替、スマートインターチェンジ関連道路の整備、盛岡西バイパスの延伸計画と整備に関する要望による推進を図ります。 <p style="text-align: right;">【物流拠点からのアクセス性向上・産業活性化支援】【救急医療体制を確立する速達性の確保】</p>
工業の新興	<p>■企業誘致の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿岸及び北東北3県への交通アクセスの利便性及び優位性をアピールするとともに、新たな立地用地確保の検討による企業誘致を推進します。 <p style="text-align: right;">【物流拠点からのアクセス性向上・産業活性化支援】</p>

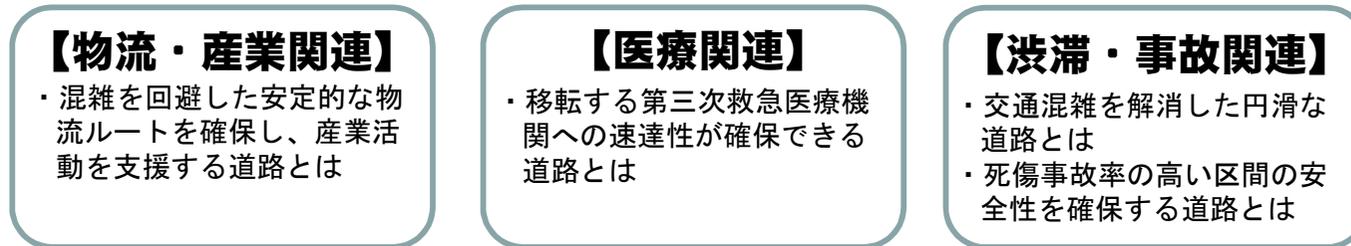
7. 政策目標の案（整備方針の検討）

◆現道の課題を解消するための整備方針を検討

◇現道の課題を早期に解消する政策目標を設定



◇対策案の検討方法



当該地域に求められるサービスレベルとは

- ①走行性・安全性ともに幹線道路として必要な機能を有すること
- ②物流拠点とアクセスし易いネットワークを確保すること

バイパスによる道路整備や現道を拡幅する案を設定し比較検討

◆以下の通り、地域から意見聴取を実施

1. 意見聴取の内容

意見聴取の項目	把握する意見	回答方法
①国道4号の利用状況について	主な利用目的	選択式(単一回答)
	主な移動手段	選択式(単一回答)
	利用頻度	選択式(単一回答)
②地域の課題について	提示した複数の課題について、それぞれの程度問題だと思うか	選択式(単一回答)
	提示した問題の他に、困っていることや問題はないか	自由回答

8. 地域からの意見聴取方法

2. 意見聴取の対象（案）

■アンケートによる意見聴取の対象（案）

項目		調査手法・規模
地域住民	盛岡市（盛岡駅以南地区）、矢巾町	全戸を対象とした郵送配布（約70,000世帯）
事業者等	沿線事業所	・盛岡市、矢巾町の企業郵送配布（約400事業所） ・紫波町、花巻市、北上市、金ヶ崎町における国道4号沿線の自動車関連企業（約120事業所）
道路利用者	盛岡広域圏の沿線地域	WEB 留置（市役所、役場、道の駅）

■ヒアリング調査による意見聴取の対象（案）

調査対象団体		
関係団体	○自治体【2自治体】	○観光協会【2団体】
	○バス協会【1団体】	○警察機関【2団体】
	○経済団体【2団体】	○トラック協会【1団体】
	○農業協同組合【1団体】	○消防機関【1団体】
	○医療機関【1機関】	

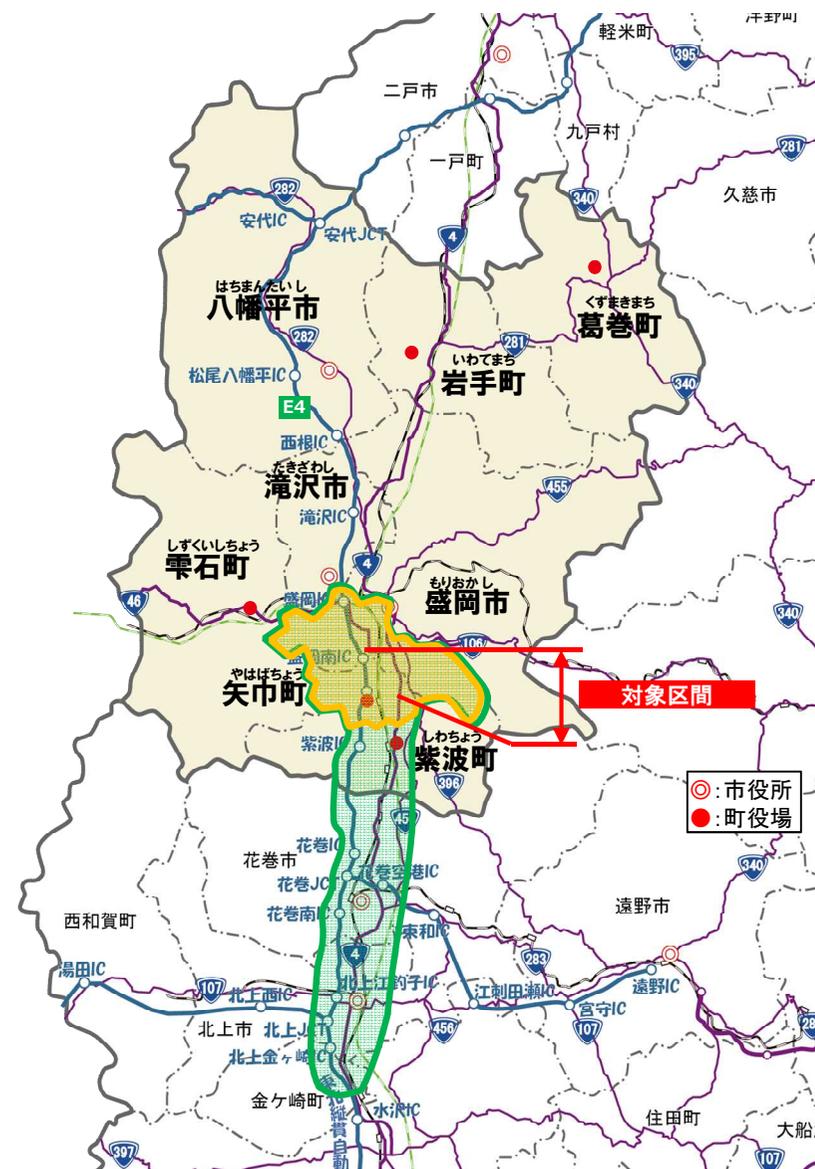
3. 地域への意向調査の周知方法

情報提供の項目
盛岡市、矢巾町に意向調査（WEB）のバナーを設置
自治体の広報紙への掲載や岩手河川国道事務所HP等で幅広く広報を実施

4. 意見聴取期間 5. 実施主体

◇ 1ヶ月程度

◇ 国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所



- 【凡例】
- アンケート配布地域（地域住民）：盛岡市（盛岡駅以南地区）、矢巾町
 - アンケート配布地域（事業者等）：盛岡市（盛岡駅以南地区）、矢巾町、紫波町、花巻市、北上市、金ヶ崎町
 - 盛岡広域圏の沿線地域：八幡平市・滝沢市・雫石町・葛巻町・岩手町・紫波町

8. 地域からの意見聴取方法

6. 調査の設問案

■意見聴取方法及び質問内容

- 1) 調査概要
計画の概要、対象区間を提示
- 2) 国道4号と地域の現状と課題を提示

(案)

(案)

国道4号(盛岡南地区)における道路計画検討に関するアンケート(案)

住民用

国道4号は、岩手県の内陸部を南北に縦貫する主要幹線道路です。しかしながら、盛岡南地区では、渋滞が発生し事故も多発するなど沿線住民の日常生活や物流に影響を及ぼしています。本アンケートは、国道4号の様々な課題に対応する計画策定にあたり、地域の皆さまのご意見をお聞きいただくための調査です。ご意見は統計的に処理し、住所・氏名や個人の意見等が特定されることはありません。ご多忙の中、恐れ入りますが、ご協力のほどよろしくお願ひします。なお、本調査で頂いた皆さまからのご意見は、計画段階評価において地域からの意見として「社会資本整備審議会道路分科会 東北地方小委員会」に報告いたします。

※計画段階評価とは、公共事業の実施過程の透明性をいっそう向上させる観点から、計画段階において事業評価を取り組みます。

計画段階評価の流れ

- ①地域の現状と課題
- ②沿線交通の現状と課題
- ③意見聴取方法の検討
- ④意見聴取結果の確認
- ⑤調査目標の設定
- ⑥対応方針(対策案)の検討
- ⑦意見聴取結果の確認
- ⑧対応方針(案)の決定
- ⑨対応方針の決定

計画段階評価の詳しい情報は「東北地方整備局 岩手河川国道事務所のHP」アクセス願ひします。

●アンケートによる回答を行う際には、「国道4号(盛岡南地区)計画段階評価」を印刷し、以下のマナーからアクセスしてください。

国道4号(盛岡南地区) 〇月〇日までご意見募集

●アンケートに関するお問い合わせ 岩手河川国道事務所 調査第二課 TEL:019-624-3196 FAX:019-624-3264

国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所 岩手県 盛岡市 矢巾町

一般国道4号(盛岡南地区)における課題を以下のとおり考えました。

1. 交通渋滞
【東北地方の直轄国道2車線区間で最も遅い旅行速度も存在します】

- 矢巾町・紫波町の生活拠点形成や盛南地区開発により、国道46号以南の交通量が増加し交通容量を超過しています。そのため、盛岡南地区では、国道4号だけでなく、国道396号、国道46号(旧上米内湯沢線)、(県)不動盛岡線など南北軸の各路線で混雑しています。

2. 交通事故
【事故多発箇所が存在】

- 矢巾町、盛岡市付近の国道4号では死傷事故が多く発生しており、特に盛岡南IC入口交差点から西徳田交差点の間では死傷事故率が東北地方の直轄国道平均の約9倍の交差点など事故率が高い区間が複数存在しています。
- 区間全体にわたって事故が多発しており、混雑している元に沿道出入りが多いため、追突事故の割合が高いのが特徴です。

3. 企業活動への影響
【物流拠点からのアクセス性に課題】

- 対象地域には、(主)盛岡和貫線、(県)不動盛岡線の周辺に、北東北唯一の盛岡トラックターミナルが立地する岩手流通センターや盛岡中央卸売市場、盛岡貨物ターミナルなどの物流拠点が存在しています。
- 盛岡貨物ターミナルから国道4号にアクセスするには、周辺道路に通行不可能な区間があるため、やむを得ず低速低下区間や主要渋滞箇所が存在する国道46号-国道4号を経由しているケースがあります。

4. 救急医療への影響
【第三次救急医療施設への搬送性に課題】

- 岩手県の第三次救急医療施設である岩手医科大学附属病院の地域別搬送件数は盛岡市が半数以上です。
- 岩手医科大学附属病院は、平成31年9月に盛岡市内丸から矢巾町に移転。移転後には現在位置と緊急時などの密接な連携体制を構築するとしていますが、搬送経路となる国道4号には主要渋滞箇所が多数存在しており、速達性を阻害することが想定されます。

今回

【平成30年9月12日】

